
遠い過去の記憶

KENKEN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠い過去の記憶

【Zコード】

Z5244A

【作者名】

KEZKEN

【あらすじ】

幼いころのばあちゃんの記憶。両親から聞かされるばあちゃんの記憶。その時一人の間に何が起こったのか？

(前書き)

あなたはまあちやん子ですか？ そうでなければわかりにくくかもしれません。少しでも共感できたら幸いです

「もうすぐ迎えが来るわ。」

「あちゃんがいった。」

病床でひとまわり小さくなつたばあちゃん。

私はその時6歳…この時の言葉は19歳の今でも忘れず覚えている。

両親が共働きだったこともあり一人っこだつた私の面倒を4歳までずっと見ててくれた。昔はやんちゃだつたらしく仕事から帰つてこない両親を泣きながらあちゃんと一緒に待つていたと母親はいつた。嫌な顔せず私の側にいてくれたお陰で私は幼いながらも人思いな人間になれたと思っていた。ある日保育園の親子参観があつた。

以前にも触れたのだが両親は共働きだったのでばあちゃん家が親子参観にきてくれた。

腰に手をあてゆっくりと歩いてくる。私は我慢できずばあちゃんに走り寄る…

その日の参観で私の家以外母親か父親が参観に来ていた。そうだ今日は日曜日なのだ、しかし両親は仕事が忙しかつた為にばあちゃんがきてくれたのである。

話はそれたが本題へ移ろう。

その日の授業は竹馬作りであつた。察しの通り老婆が制作できる代物ではない…

ばあちゃんは顔を曇らせ先生に何かいつている。

先生が寄ってきて「じゃあおばあちゃんと先生と一緒に作りましょうね

といわれた。

幼かつた私には全く理解ができない展開であつたろう。いや訳を説

明しなかつた保育士にだつて説明する義務があると思つのだがその時の空気は大体私にも伝わつていたのかも知れないと首を振り返つた。

次にわかつていたかのような事が起つた。ほとんどが先生によつて作られたのである。

あの時はあちやんじやなくて父親か母親がきてくれていればあんな惨めでどこかにこきたい感覚はうまれなかつたであらう。本当にどう表現すればよいのがわからないこの感覚は私の目から涙を流した。

あの時はあちやんの気持ちになれなかつた。

ばあちやんには私の気持ちは痛いほどわかつただらう。でも体は無理をできない。

苦汁の決断だつたんだらう。

無事竹馬制作が終わりばあちやんと一緒に家に帰宅する」とになつた。

その時の家は保育園から約10分のところにあつたのだからやり切れない気持ちの私は最後の信号を渡るとばあちやんを置いて走つたのである。保育園から一言も言葉をかわすことなく私は走つた。後ろからばあちやんが私の名前を呼んでいた。

「ばあちやんなんて嫌いだ」

私は今日の嫌な気持ちをばあちやんにぶつけた

私が玄関の前に座つていると遅れてばあちやんが歩いてきた。

「ばあちやんでごめんな
ばあちやんはいった。

「なんでばあちやんがきたの?なんでお母さんじやないの?
今でもいつたことを覚えてる。悪い足をひきズリながらばあちやんはやつとの思いで保育園を往復した。

なのに何もしらない私はばあちやんにあんなことをこつてしまつた。

「「めんね。ばあちやんで」「めんね」
なく私を撫でながらばあちやんはいった。

ばあちやんも泣いてた。

なんて謝ればいいんだろ?..ばあちやんは何をしてもずっと私の味方
だつたのに。行きたいといひだつて言えれば連れてつてくれた..
足が悪いのに落ち着きのない私の歩幅に合わせてくれた。

なの。」。

19歳の時母親から教えてもらつた紛れも無い事実に胸を引き裂か
れた。

思いだせば涙がでてくる。ときどき物置に置いてあるあの時の竹馬
をだしてみる...なんて軽いんだ。私の胸くらいしかない竹馬...片手
で持ち上げることができるほど細く軽い竹の棒に先生と一緒に作つ
ていただばあちやん。どんなに辛かつたんだか今わかつた...

あの口6歳の時に聞こた「じまあの向十年たつたらわかるのだら
ひだり。」

あと何年たてば許せられるのだらひだり。

笑つてたばあひやん
泣こしてたばあひやん

全部のばあひやんが好きだつた。
いやつこれからもずっとばあひやんは歩れない。

あつがとね

じの物語はファイクショーンです。

(後書き)

最後までありがとうございました。もういないばあちゃんは何を自分に問い合わせたかったんだろ？もし今ばあちゃんと話ができたらなんていうだろ？眠れなくなってしまいます（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5244a/>

遠い過去の記憶

2010年10月11日02時52分発行